

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	-3.0	-7.0	-15.0	令和8年度の目標	+2.0	+7.4	-5.6	-1.7	-1.0	-3.3	-2.0	+1.6
令和7年度の結果	-8.0	-12.0	-20.0	令和7年度の結果	-3.0	+2.4	-10.6	-6.7	-6.0	-8.3	-7.0	-3.4
令和6年度の結果				令和6年度の結果								
令和5年度の結果				令和5年度の結果								

年度	令和7年度 成果と課題		令和8年度	
内容			目標	目標達成に向けた取組
学校全体	【成果】 ○週4回の朝学習やベーシックドリル、授業内での反復練習等に継続的に取り組んできたことで、基礎的な知識・技能においては一部に定着の兆しが見られる。 【課題】 ○日常的に基礎事項の定着を図ってきたが、江戸川区学力調査では、多くの学年・領域において区平均を下回り、基礎的な知識・技能の定着が十分とは言えない。また、記述や活用問題ではさらに正答率が低下している。		○基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る。 ○既習事項を活用して考え、根拠をもって表現する力を育成する。 ○スタンダードに基づいた授業改善を通して、全ての児童の学力向上を図る。	○朝学習やベーシックドリル、よむYOMUワークシート等を計画的に実施し、基礎的事項の反復と定着を徹底する。 ○授業において、理由説明や記述の場面を意図的に設定し、表や図、言葉を用いて考えを表現する活動を充実させる。 ○算数科の習熟度別少人数指導を計画的に実施するとともに、校内研究を通して授業改善を進める。具体的には、発問や板書の工夫、具体物や図、ICTの活用等を取り入れ、児童一人一人が学習内容を確実に理解し、課題に主体的に取り組むことができる授業へと改善していく。
第1学年	【成果】 ○日々の音読や書く活動、数の学習を繰り返し行う中で、文字の読み書きや数の理解など、基礎的事項の習得が進みつつある。 【課題】 ○基礎的事項の定着に個人差が大きく、日常の学習においても自分の考えや気付きを言葉で表す力が十分に育っていない。		○学年全体を通して基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る。 ○自分の考えや気付きを言葉で表現する力を育成する。	○算数科で、たし算・ひき算の計算技能の定着を図るため、反復練習や具体物操作を取り入れたり、数の構成や分解を意識した活動を通して数量感覚を育てたりする。また、具体物や絵、簡単な表を用いて、自分の考えを表す活動を行う。 ○国語科で、音読や視写、ひらがな・カタカナの練習を継続的にし、文字や語の定着を図る。 ○国語科で、日常の言葉集めや発表活動を通して、主述を意識した簡単な文づくりに取り組み、伝え合う力の基礎を高める。
第2学年	【成果】 ○音読や計算練習、九九の反復練習を継続して行うことで、基礎的な技能の習得が見られる児童が増えた。 【課題】 ○九九の定着にばらつきがあり、短時間で正確に言えない児童が見られる。基礎技能の定着に個人差があり、学習したことを活用して考えを表現する力が十分に育っていない。		○九九を確実に定着させ、正確かつ素早く計算できる力を身に付ける。 ○音読や読解を通して、内容を正しく捉え、自分の考えを簡単な文で表現する力を育てる。 ○表や図を用いて数量や関係を捉え、自分の考えを説明する力の基礎を養う。	○朝学習や家庭学習で九九の反復練習を継続的にし、1分以内に正確に唱えられることを目指すとともに、授業の中でも計算練習を繰り返す。 ○国語科の授業において、音読を日常的に取り入れるとともに「だれがどうした」「なぜ」「どう思ったか」などを意識した発問を行い、短い文で自分の考えを書く活動を単元の中に入れていく。 ○算数科の授業において、ブロックや図、簡単な表を使って考える活動を取り入れ、「どのように考えたか」言葉で説明する場面を設定する。また、図や式を用いて、自分の考えを簡単な言葉で表す活動を行う。
第3学年	【成果】 ○朝学習やドリルによる反復練習により、基礎的事項について一定の習得が見られる。江戸川区学力調査の結果から、乗法や平面図形などの一部の単元では区平均を上回る正答率が見られる。 【課題】 ○区平均と比較して、特に記述や理由説明を要する問題では、-3~-10ポイント程度の項目が複数見られる。日常の学習においても、自分の考えを言葉で説明したり、根拠を明確にしたりする力が十分ではない。		○日常生活や国語の時間では、自分の考えや根拠となることを表現する力を育てる。 ○朝学習やドリルの反復練習により身に付いた力を生かして発展問題にも取り組む。	○国語科の授業において、自分の考えを書く活動を多く取り入れ、どうしてそう考えたかを説明する場をもつ。 ○算数科では、図や数直線を用いて説明する活動を行う。 ○習熟度に応じてプリントを用意し、数多くの問題に取り組む。
第4学年	【成果】 ○江戸川区学力調査の結果から、基礎的な計算や言葉の使い方や語句理解など、基礎事項の一部では区平均に近い正答率が見られる。 【課題】 ○多くの設問で区平均を下回り、特に思考・判断・表現に関わる問題では、-5~-15ポイント程度の差が見られるなど、基礎・活用の両面で課題が残る。		○これまでに習った四則計算を正確に求める力を身に付ける。 ○朝学習での読解問題を通して、自分で読み解く力を身に付ける。 ○資料を読み取り、自分の考えと理由を書く力を身に付ける。	○朝学習や家庭学習・授業の開始時に計算の反復練習を行い、速く正確に求めることを目指す。 ○朝学習時の読解プリントや「よむYOMUワークシート」を使用し、サイドランを使って設問に対する答えの出し方を、身に付ける。 ○算数科では、図や表、式を関連付けて、自分の考えを筋道立てて説明する活動を行う。 ○どの学習でも、「自分の意見」とその根拠となる理由を書かせ、自分の考えをもつ習慣を付けさせる。
第5学年	【成果】 ○江戸川区学力調査の結果から、言語文化や整数の計算などの一部の基礎問題では区平均を5ポイント程度上回る正答率が見られる。 【課題】 ○応用・活用問題において区平均との差が-5~-15ポイント程度の項目が複数見られ、既習事項を関連付けて解決する力が十分に育っていない。		○小数のかけ算やわり算を筆算を使って正確に計算できる力を身に付ける。 ○図形の特徴や性質を理解し、面積を求める力を身に付ける。 ○初見の文章を読み、文章を要約する力を身に付ける。	○朝学習の時間に、区学力調査の結果を分析した個人カルテを基に、個に応じた苦手な分野の、プリント学習やタブレット学習を行う。また、算数科では、図や表、式を基に、理由や根拠を明確にして説明する活動を行う。 ○初見の文章に対する読解力を身に付けるために、朝学習の時間に、読売新聞社の「よむYOMUワークシート」を使用する。 ○国語科の学習では、説明文の文章を読む際に、文章の順序を表す言葉や文章と文章をつなげる言葉などに、サイドランを引くなどして、要点を明らかにしながら文章を読む練習を行う。 ○国語科の学習では、物語文の文章を読む際に、叙述を基に思考しながら文章を読む練習を行う。
第6学年	【成果】 ○江戸川区学力調査の結果から、基礎的な知識・技能に関する問題の一部で、区平均に近い結果が見られる。 ○全国学力・学習状況調査の結果から、「授業がよく分かる」を肯定的な回答をした児童が全国平均と比較して3~4ポイント上回っている。 【課題】 ○複数の条件を踏まえて考える問題や記述問題では、-10ポイント前後の差が見られるなどが課題である。		○分数・小数・整数が混ざった計算の解法を身に付ける。 ○数量の関係を文字を使った式で表す方法を学び、数学の代数の基礎を築く。 ○図表や複数の資料から必要な情報を抜き出し、それらを関連付けて理解する力を身に付ける。 ○話を聞いたり読んだりして理解したことについて、目的や意図に応じて、自分の考えをまとめたり、広げたりする力を身に付ける。	○朝学習の時間に、個に応じた苦手な分野のプリント学習やタブレット学習を行う。 ○複雑な数量や文字を簡単な数量に置き換えさせる活動を通して、立式させる手助けにする。 ○資料から読み取れる事実と、それに対する考え・意見に色分けして線を引かせ、必要な情報を整理する力を付けさせる。 ○初見の文章に対する読解力を身に付けるために、朝学習の時間に、読売新聞社の「よむYOMUワークシート」を使用する。 ○算数科では、図や表、式を適切に選択・活用し、論理的に分かりやすく説明する活動を行う。 ○自分の考えたことに基づき話し合ったり、文章にまとめたりする活動を授業の中に積極的に取り入れる。